

市川の空気を調べる会

通信 10号 2016年9月2日(金)



発行 市川の空気を調べる会 代表 鈴木一義

電話&FAX: 047-373-8369 E-mail: kazu38yoshi@eos.ocn.ne.jp

事務局 秋元久枝 電話&FAX: 047-373-1971

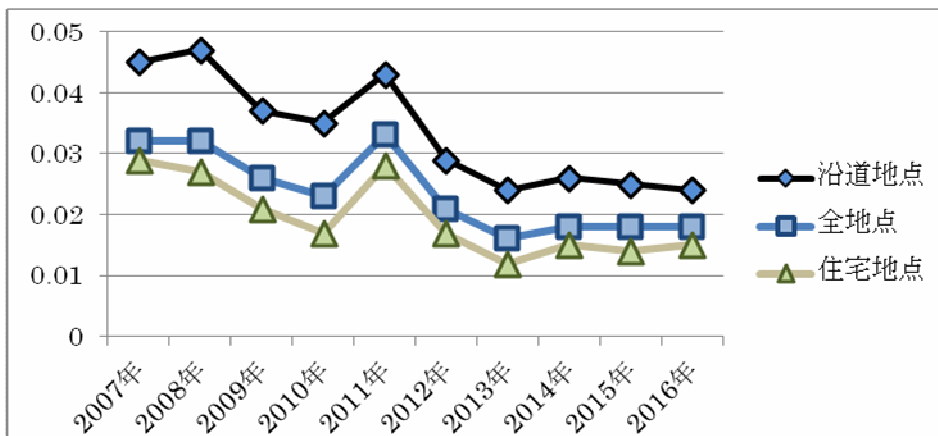
☆ 2016年6月度 NO₂測定結果の概要

定例測定時の直前まで天候が定まらず、カプセル作りにも不手際があり、ご迷惑をお掛けしました。ご協力有難うございました。有効測定数は市川市内（隣接する松戸市矢切周辺、串崎新田、船橋市本中山を含む）370件、市外120件（「関さんの森」含む）でした。

市川市内測定結果

6月度の当会測定の内市全域と住宅地、沿道地別の平均濃度とその推移を図1に示します。

図1 市川市内の6月度 NO₂ 平均濃度(ppm)の年度推移



6月度の市川市内の測定値は図1の通りで、ここ3年間の値とほぼ同じでした。

それでは実際にこの時期の市内のNO₂濃度はどう変化しているのでしょうか。

図2 市川市大気汚染測定局の6月度測定値に見る25年間のNO₂濃度(ppm)の変化

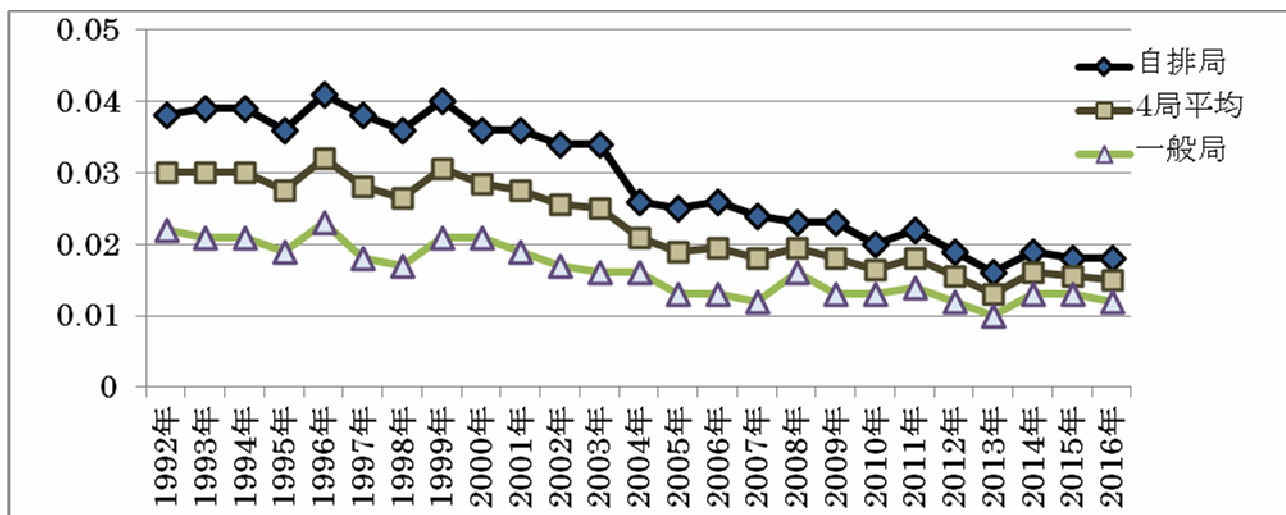


図2は当会が測定を始めた1992年からの、6月度定例測定日の周辺24日間の、市川市測定局（一般局と自排局各2局の平均）におけるNO₂平均濃度の年度毎の変化を示すグラフです（市川市環境保全課提供データをもとに作成）。各点は24日間という長期間の平均濃度なので、その時期のNO₂濃度をほぼ正しく表していると思えます。グラフが示すように、2000年頃から住宅地（一般局）も沿道地（自排局）も、車の排気ガス規制の強化などによりNO₂濃度が低下し、今年6月度もここ数年の低濃度を維持し、自排局はここ5年間0.02ppmを下回り、一般局もここ8年間0.013ppm前後の低濃度となっています。

市川市地域別のNO₂濃度

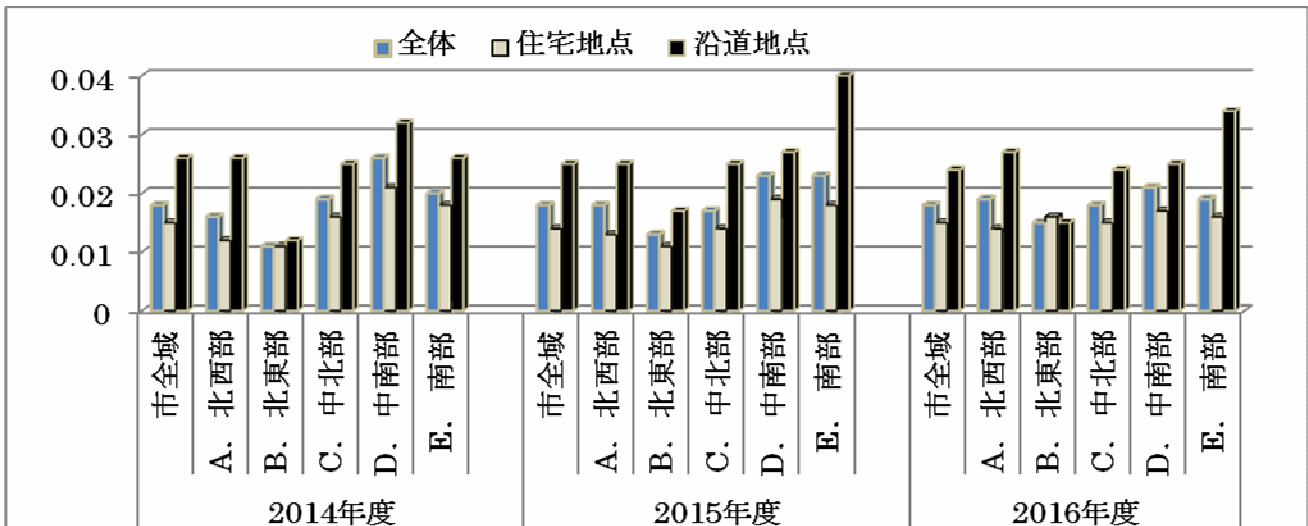
図3 市川市 区分図



市川市を図3のように地理的に5地域に分けて、各地域の6月度のNO₂平均濃度を見てみましょう。図4は各地域の平均濃度を棒グラフで示したもので、前2年度も参考として載せました。2016年もこれまでとほぼ同様の結果でした。**A北西部**（松戸矢切地区、北国分、中国分、国府台、国分、曾谷等）は、外環道が接続する松戸街道により沿道部の濃度は高いですが2車線なので、住宅地は高くなっていません。**B北東部**（大町、大野、南大野、柏井等）は、これまで住宅地、沿道地とも最低濃度でしたが、今回住宅地の濃度がやや高めになっており、この原因は不明です。**C中北部**（JR線以北で真間、須和田、宮久保以南）は14号線と市川柏線が走り、走行車数が多いため住宅地は北西部よりやや高めです。

D中南部（JR線以南、江戸川以北）は、産業道路と京葉道路を走行する多量の大型車両により、住宅地は最も高濃度となっています。**E南部**（江戸川以南）は、湾岸道路により沿道部は最も高いですが、地域の端を通るため、住宅地は中南部より低めです。

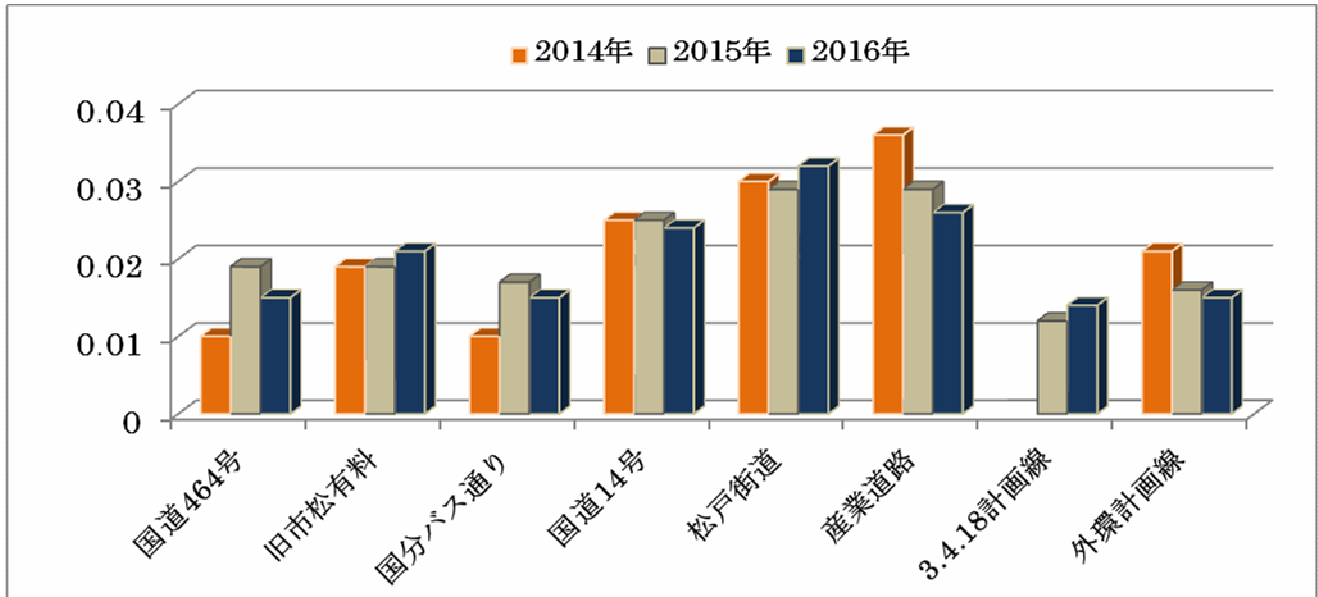
図4 2016年6月度市川市内地域別NO₂濃度(ppm) (2014年、2015年度も併記)



主要幹線道路沿道(測定数が6地点以上)の汚染度

NO₂平均濃度を図5に示します。測定数が15地点を超える国道14号、松戸街道、産業道路を比べると、外環道接続の影響で後の2道路は国道14号と同等かそれ以上の汚染度を示しています。今回京葉道や湾岸道の測定数が少なく表示できませんでしたが、湾岸道が最も高濃度となっているようです。計画路線では3.4.18線の建設が進んでいるせいか、濃度の上昇が見られています。

図5 測定数が多い市内道路沿線部のNO₂平均濃度(ppm) (2014、2015年度も併記)



☆ 会員からのお便り

○ 浅井 ゆき さん(松戸 矢切地区)

◆部分供用による地域の環境の悪化

当初、国は「部分供用は周辺道路の混乱をもたらすので、全体完成後に高速部と一般部を一括供用する」という方針であったのに、住民説明もないまま、外環道路国道部分2車線を部分供用すると方針転換しました。当然松戸地区の外環対策協議会は、「部分供用の再検討と凍結」を求めて、何度も国や松戸市と交渉しました。残念ながらやめさせることはできませんでしたが、*部分供用後の交通量予測*部分供用前と後の交通量調査と騒音・振動調査(年1回)*二酸化窒素と浮遊粒子状物質の測定(年4回)などの実施を約束させました。

2008年から部分供用されている国道298号線の交通量は、約12,800台/日(大型車混入率は約40%)。外環完成時の4分の1以下の交通量にもかかわらず、沿道の騒音は環境アセスメントの予測値を既に超えています。完全供用時にはどれほどの騒音が住民を悩ませることになるのでしょうか。平日外環道路を通るのはほとんどが貨物車輛で、県道市川松戸線を市川方向へ流れてゆきます。市川方向の県道の渋滞はさらに深刻になっています。

◆外環道路は巨大な遮音壁を必要とする道路

外環道路の両側には、5m~7mの巨大な遮音壁ができます。料金所ができる三矢小台地域の遮音壁は、7mの高さで全面金属板。「圧迫感がある。見通しが悪く防犯上も心配」という声が聞こえてきたので、当会では近隣住民が首都国道事務所と交渉する場を設定しました。

「なぜ 7mの高さが必要なのか。全面透光板にできないか」という意見が出ましたが、首都国道事務所の回答は「騒音の予測結果から 7mが必要。金属板の方が吸音効果は高い。地面から 1～3mの高さを透光板に変更する」でした。このような遮音壁を必要とするほどの騒音が予測される道路だということです。

◆外環道路によって地域の生活環境は著しく悪化

松戸地区の外環対策協議会は、あくまでも外環道路の建設に反対の立場で運動していますが、現実問題として、工事中や完全供用後の地域住民の生活への影響が深刻かつ重大なので、説明を求めたり、交渉をしたりしています。常時監視測定局は要求より遅れて完全供用前に、場所も県道から離れて設置されますが、交通量調査等はこれまで通り継続して行うことを約束させました。しかし地域分断は今でも深刻な問題であり、外環道路完成後は地域の生活環境は更に著しく悪化します。地域の環境を守るため、今後も粘り強く運動を続けてゆきます。

☆ ニュース・お知らせ

◇ NO₂(二酸化窒素)測定の実進 ～～月間計測定の拡大～～

私たちの測定している 1 日計は、その時点の各地域の比較をするには適していますが、風等で日々の変動があるため、時を隔てた例えば道路開通前と後の比較はし難いという難点があります。この難点を解決するため、同じく天谷先生が開発した月間計は、1 月間の NO₂ 平均濃度を測定するので、同じ場所の時を隔てた測定値の比較に適しています。私たちの試験で、この月間計の卓越性が実証されたので、まだ実現していない国内の NO₂ 測定市民運動の統一を、まずこの月間計で実現できないものかと、試験に関わった 4 名で「NO₂ 測定月間計研究会」を組織し活動を始めました。代表の伊藤章夫さん（元千葉県環境研究センター）らの活躍で、測定参加者が増えてきています。この研究会については改めてご報告します。

◇ 市川市市民活動補助金の当会への交付が決定されました。

今年度からは、市民活動補助の可否とその金額が、市民届け出制度から市の審査会の審査によることになりました。当会も 6 月に申請しこのたび結果が通知され、補助は可で補助金額は申請通り 8 万円が認められました。諸活動がよりやり易くなります。これも皆様のご協力による地道な測定運動が評価されたためと思われまします。今後も大気監視活動を可能な限り継続し、発展させてゆきましよう。皆様の変わらぬご協力をどうぞよろしくお願い致します。

☆ あとがき

今年 6 月度測定の結果の概要をお伝えしました。なお、カプセル番号順の測定値は当会のホームページ（市川の空気を調べる会）でご覧いただけます。/ 今回の会員からのお便りは、外環反対を貫き、外環国道部の部分供用にも苦しめられながら、絶えず当局との話し合いを続けてきた松戸矢切地区からの報告です。他地区でもどうぞご参考になさってください。/ 当会の測定地点の過疎地は行徳地区で、地域、道路等の比較をする上で支障が出ています。お知り合いがいまさら、どうぞお声掛けをお願いします。

(以上)